

(別添3)

【佐世保市】

校務 DX 計画

児童生徒・教職員・保護者や地域住民のウェルビーイングを高めるために本市では校務 DX を積極的に推進します。

① クラウドツールや、AI 型ドリル、教育データの利活用等を通して、教職員の児童生徒理解や授業改善を実現し、誰もが等しく質の高い教育を受ける機会の創出を図ります。

② 各種システムや支援員等の配置による人的支援を通して、教職員の ICT 活用の日常化を促進し、教職員の働き方改革の推進を図ります。

③ 学習 e ポータルや Web 会議ツール等を活用することで、保護者や地域住民と学校との情報共有の利便性と情報の質の向上を図ります。

④ ①～③の実現を図るために、ネットワークの強靱化や適切なルールの設定と運用を図ります。

1. GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリストに基づく検証

文部科学省が、令和5年9月に実施した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」(以下「チェックリスト」という。)に基づく自己点検について、以下の結果となりました。

まず教育委員会については、統合型校務支援システム導入・セキュリティポリシーの運用・クラウド環境等の整備などの校務 DX 化はできていましたが、ゼロトラスト未実施に伴い校務用端末の外部持ち出し・外部での勤怠管理についての校務 DX 化はできていませんでした。

学校については、児童生徒の欠席連絡や保護者向け文書等のデジタル化・児童生徒 1 人 1 台端末の家庭での利用・クラウド環境を活用した教職員間の情報共有、CBT の導入などの校務 DX 化は進んでいますが、生成 AI の活用やペーパーレス化の推進については継続した取り組みを続け充実を図ります。

今回の結果から、クラウド環境を活用した校務改善の進捗状況には教育委員会では概ね進展していますが、学校については、学校間で差があることが明らかになりました。これらのことを踏まえた今後の取組として、文部科学省が実施する、「オンライン・オンデマンドでの学習機会の提供」、「全額国費によるアドバイザー派遣等」を積極的に活用し、学校現場の困り感に寄り添った取組を拡充していきます。

2. 統合型校務支援システムの活用促進

令和5年度において、長崎県と共同調達により、クラウド型統合型校務支援システムを導入しており、教職員の平時の業務の効率化と正確性を大幅に向上させるための取組を進めています。児童生徒の出席管理や成績入力、時間割作成など、煩雑な作業を一元的に管理するとともに、県内で同システムを運用している自治体同士でのデータ連携機能によって、これまでの進学処理や転学処理等を完全電子化し、教職員の負担が軽減できる効果が期待されます。また、教職員間の連絡や情報共有等も簡単に実施でき、コミュニケーションの円滑化にも寄与することから、積極的な活用を行っており、アンケート結果では、教職員の約 98% が活用しています。今後も長崎県推奨システムを活用し、教職員の人事異動によるシステム操作等への不安を解消するとともに、県下市町とのデータ連携や情報共有等を可能とします。また、

システムに対する改修要望については、県下自治体と協力し県に求めています。

3. ICT 支援員の配置

教職員が ICT 活用教育を実践する上での課題の解決や ICT 活用指導力の向上、児童生徒に対する端末活用支援を目的として、令和 6 年度は、市内 70 校に ICT 支援員を 18 名配置（1 人当たり 3.8 校：国が推奨する基準 4 校に 1 人）することで、学校現場における直接的な支援を実施しています。また、パソコンやプリンター等の機器やネットワーク等の不具合が生じた際の障害対応や ICT 機器の動作点検、アプリケーションやデジタル教科書等のインストール作業支援等の環境整備・維持を行っており、教職員の負担軽減に大きく寄与しています。さらには、学習系の各種コンテンツの活用方法や情報セキュリティ管理に関する研修、ICT 機器のマニュアル作成、情報教育関連の掲示物の作成等を通じて、教職員及び児童生徒の ICT 活用に対する意識の啓発・向上にも寄与する存在であるため、今後も可能な限り継続配置を図っていきます。

4. Google ヘルプデスクの運用と活用

本市の学習ツールとして活用している、Google Workspace for Education の教育現場での活用により発生する、トラブルや疑問点などの解決を行うための支援として、専門のヘルプデスク窓口を設置し、教職員の授業に対する時間を確保しています。

5. AI 型ドリルの活用

AI 型ドリルの導入により、教職員が学習課題の選定や印刷業務等に追われることなく、児童生徒一人一人の理解に応じた個別最適な学習を提供することが可能になるとともに、自動採点及び集計、児童生徒の学習到達度の把握などが即座にできることから、教員の負担軽減及び業務改善につながっています。

6. スマート・スクール・SASEBO 羅針盤の活用

本市が独自に開設している教職員専用の情報共有サイト「スマート・スクール・SASEBO 羅針盤」では、授業や校務で使用できる ICT を活用した実践や成果資料等が多く投稿されており、日々更新がなされています。それらは、学校の垣根を越えて共有可能となっており、各学校の実態に応じて活用を促すことで、今後も本市の教育の情報化の推進につながるものと考えており、積極的な活用を進めています。

7. 教育情報ネットワークの強靱化

令和 4 年度に教育情報ネットワーク強靱化として、校務系ネットワークと学習系・外部接続系ネットワークを分離して、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアクセスできない環境を創出するなどの各種の強靱化対策を実施しています。今後は、情報技術の進展とさらなる教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、現教育情報ネットワークの更新時に校務系・学習系ネットワークの統合を見据えながら、ゼロトラストの考え方も含めたセキュリティ対策の調査・研究を進めていきます。

8. 安全・安心な活用環境を実現するためのルール作り

GIGA 第 1 期によるハード整備に歩調を合わせ、サイバー攻撃やヒューマンエラーから機微情報の漏えいを防ぎ、学校及び家庭での学習環境の安心・安全を確保するために、国の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を参考としながら、学校情報セキュリティポリシー対策基準を策定し、運用を行っております。今後も、必要な改訂やルールに基づいた実施の徹底を図ります。

9. 学校の印刷環境再刷新

各学校の輪転機（印刷機・孔版印刷機）、コピー機、プリンターを1つの複合機へ集約することで、教職員の負担軽減と消耗品等経費的な削減の両立を目指す取組の検討を進めます。

効果を最大限に引き出すためには、AI型ドリルの活用促進と紙媒体で行っている業務（保護者連絡等）の見直しを両輪で実施していきます。加えて、この刷新にあわせて、校務におけるFAX・押印の在り方を再検証し、原則廃止に向けた検討を進めていきます。

10. 校務における生成AIの活用

業務の効率化や質の向上を図るため「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき、国の実証研究における実践例等の情報等について、各学校に提供するなど、校務における生成AIの活用が推進されるよう支援します。

11. 学習eポータル等の活用

現在、教職員の負担軽減や保護者との情報共有による連携強化を目的として、令和5年度から導入している「まなびポケット」の一部機能（保護者連絡機能）を、保護者に対する連絡手段として、全市統一システムとして運用しています。これまで欠席連絡等で慌ただしかった朝の電話対応や紙媒体で発出していた学校からの情報発信及び事務連絡等が、本システムの導入によって、大きく改善されたことで、日々の業務の効率化につながっています。